

# 道軟連会報

2024年度 前期号  
2024.7.16  
第85号  
発行所  
(一社)北海道軟式野球連盟  
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号  
発行者 鎌田英暢  
編集者 総務部  
印刷所 岩橋印刷株式会社

新たな歩みを目指して

## 一般社団法人北海道軟式野球連盟発足!!

二〇二四年度の定時評議員会は、本年三月九日（土）に札幌市内のホテルノースステイにおいて、中標準支部の野田評議員を議長に選出して、二年間準備を進めていた一般社団法人化に向けた「解散評議員会」と「設立社員総会（評議員会）」を開催し、審議に入りました。

解散評議員会では、二十三年度の事業及び収支決算などの報告のほか、任意団体である現行組織の解散と法人移行について審議を頂き、出席評議員全員の賛同を得て無事採択され、引き続きの設立社員総会（評議員会）では二四年度の事業計画・収支予算及び支部負担金の他、一般社団法人化に伴う定款及び規程類の承認と二四・二五年度役員

の選任を審議頂き、満場一致で無事採択されました。

特に支部負担金については、全道的に支部登録チーム数が減少している状況下においても、健全な道軟連財政運営を図る上では一定の負担基準の改正は、止むを得ないと理解を頂き、一律支部負担金の一万円UPとチーム会費一般・学童・少年の各部門とも一チームあたり千円の値上げを承認頂きました。なお、この負担金は従来五年間変わらないものですが、今回は昨今の軟式野球を取り巻く情勢を考慮し、向こう三年間の負担となりました。

また、役員体制も法人化に伴い、代表理事本間俊三会長をはじめ、二一名の理事と二名の監事を選出頂

き、道軟連の新たなスタートとなつたところです。（詳細は別添組織図をご覧ください。）

各部ごとの年度の事業計画の詳細は「総会議案集」を参照して頂きたいと思いますが、主なものとして、総務部では、放送員・記録員の養成講座の開催や中学部活動の地域移行の取り組み、競技者登録システムの活用を、育成強化部では、成長期のスポーツ障害予防・指導員講習会の開催や子供たちの肘肩障害予防検診の実施を、審判部では、審判員の資質向上と技術の普遍化を目指した各種審判講習会の開催などであります。

また、今年度は、九月に十勝支部で高松宮賜杯第六十八回全日本軟式野球二部の全国大会が開催されます。

開催支部はもちろん全道一丸となつて成功裏に終わるように鋭意準備を進めることとなりますので、各支部の引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

なお、開会に先立って表彰した連盟功績賞四名と全国大会優秀成績二チームは次の通りです。

〈功績賞受賞者〉

- ・住吉 邦幸氏（後志支部）
  - ・高木 宏氏（旭川支部）
  - ・伝庄 好氏（南空知支部）
  - ・大宮 利光氏（北見支部）
- 〈全国大会優秀成績チーム〉
- ・岩見沢学童野球クラブ（南空知支部）
  - ・第二十八回高野山旗全国学童野球大会 準優勝
  - ・鹿追清水新得（十勝支部）
  - ・波踊りカップ全国学童軟式野球大会二〇二三 第三位

## 本間会長あいさつ

日頃から当連盟の事業運営に対し、格別なご理解・ご協力を頂いていますことに感謝申し上げます。

既にご承知のように、当連盟は二年間の準備期間を経て二〇二四年度より「一般社団法人」として新たな歩みを始めたところであります。

道大会等の事業運営自体は基本的には変わらないわけですが、今後一層の軟式野球の継承と発展、そして未来へつなげる「野球人」の育成を図るべく各種事業を進めるなど、社会的な責任がこれまで以上に重く



住吉氏、高木氏表彰

なったこととなりますので、引き続きのご理解とご支援をお願いいたします。

今、スポーツ界は、大谷君をはじめ、野球だけでなく多くの競技スポーツにおいて、日本の選手が活躍しています。このような姿を見るとスポーツ界も楽しい話題が多くな

り、実際にスポーツのテレビ放送を見る方やスポーツに興味を持つ女性も増えてきましたが、競技人口はどうかと言うと、例えば軟式野球では、全国で一般・少年・学童で約二十千パーセントが減少しています。

人口減少自体は、歯止めが利かない自然の理ではありますが、せめて野球を愛好している子供達から一般の方までに対しては、尽力を尽くしてより良い環境を作っていくことが我々の役割と想っています。

今後は「一般社団法人」として新たな形での組織運営になり、想定外の事態も出てくることもあると思いますが、総勢二十三名の理事・監事全員一丸となって更なる道連の発展のために今まで以上に努力して参りたいと考えていますので、各支部の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 鎌田理事長あいさつ

当連盟が「法人化」として新たにスタートした重要な年に「理事長」という重責の任に就きましたが、長年副理事長として、前任の長野・奥山両理事長の元で培った知識や経

験などを活かしながら精一杯務めて参りたいと存じます。

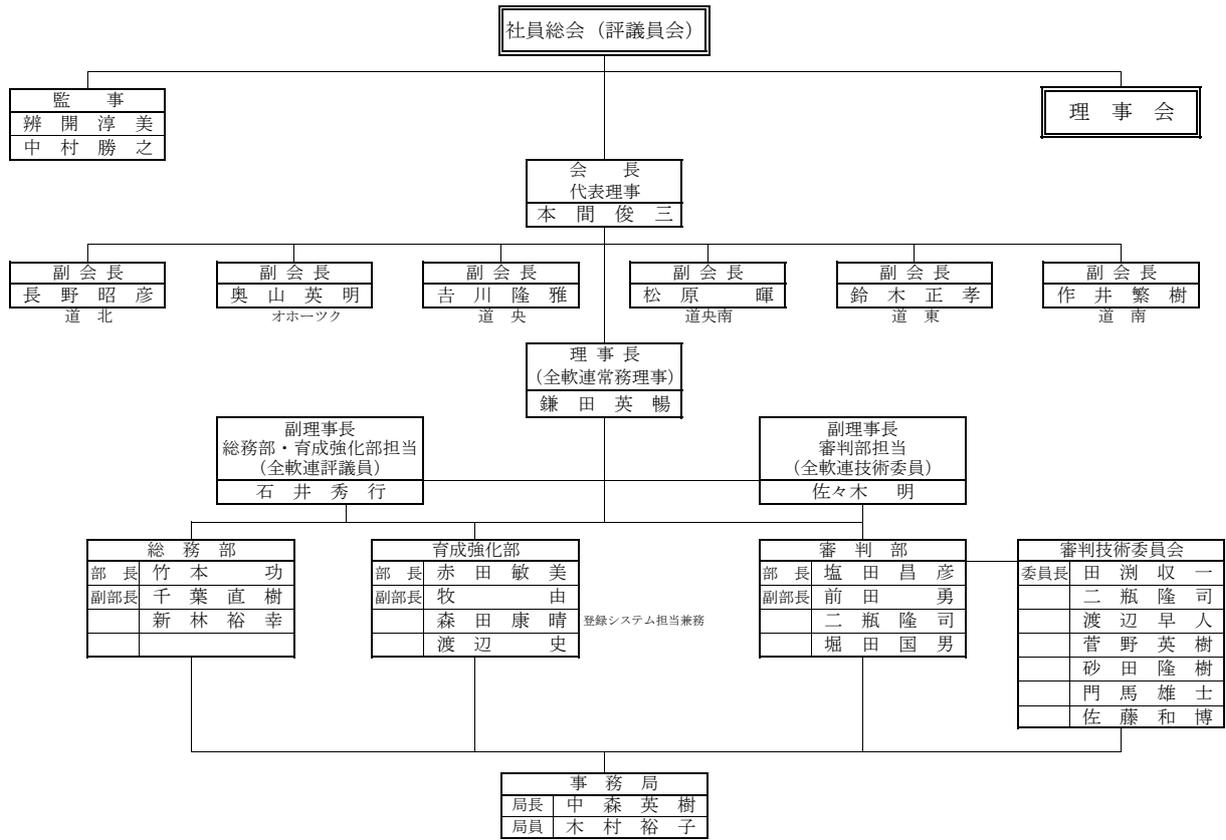
昨年は、私たちの生活の根底を大きく変えた「コロナ」禍による社会的な制約がようやく軽減され、道大会の運営などもほぼコロナ前に戻りつつありますが、一旦減少し続けた野球の競技人口はなかなか回復する気配が見られません。

子供達においても多様なスポーツへの愛好傾向や中学における部活動の在り方検討など、その環境は依然として厳しいものとなっていますが、本来スポーツ自体が持つ「喜びや楽しみ」を改めて認識しながら、自ら「する」「観る」「支える」など、野球を愛好する全ての人々が楽しめるような環境整備に鋭意工夫しながら努めなければならぬと考えていますので、全道各支部・チームの皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。



北海道軟式野球連盟 解散評議員会並びに設立社員総会

一般社団法人北海道軟式野球連盟組織図及び専門部担当理事 (2024年度~2025年度)



新しい道連役員の新顔

<p>令和6年 全日本軟式野球連盟常務理事</p>	<p>令和6年 北海道軟式野球連盟理事長</p>	<p>平成28年 北海道軟式野球連盟副理事長</p>	 <p><b>理事長</b> 鎌田英暢 氏</p> <p>昭和29年 4月6日生</p>	<p>令和6年 北海道軟式野球連盟副会長</p>	<p>令和2年 北海道軟式野球連盟札幌支部会長</p>	 <p><b>副会長</b> 吉川隆雅 氏</p> <p>昭和51年 10月4日生</p>	<p>令和6年 北海道軟式野球連盟副会長</p>	<p>令和元年 北海道軟式野球連盟理事長</p>	 <p><b>副会長</b> 奥山英明 氏</p> <p>昭和19年 3月29日生</p>
<p>令和6年 北海道軟式野球連盟監事</p>	<p>平成22年 北海道軟式野球連盟日高支部理事長</p>	 <p><b>監事</b> 中村勝之 氏</p> <p>昭和19年 10月5日生</p>	<p>令和6年 北海道軟式野球連盟評議員</p>	<p>平成28年 北海道軟式野球連盟評議員</p>	 <p><b>理事</b> 堀田国男 氏</p> <p>昭和33年 3月11日生</p>	<p>令和6年 北海道軟式野球連盟副理事長</p>	<p>令和元年 北海道軟式野球連盟理事長</p>	 <p><b>副理事長</b> 石井秀行 氏</p> <p>昭和38年 5月12日生</p>	

新しい各支部長・理事長・評議員 審判部長・技術員等の紹介

南空知支部 支部長



伊澤幸信 氏  
昭和29年  
3月9日生

令和2年 岩見沢市軟式野球連盟 会長  
令和2年 南空知支部 副支部長  
令和6年 南空知支部 支部長

札幌支部 審判部長



出内紀男 氏  
昭和34年  
10月26日生

平成23年 公認審判員一級取得  
平成26年 審判指導員  
平成28年 札幌支部 理事  
令和6年 札幌支部 審判部長

日高支部・審判部長



齊藤光司 氏  
昭和39年  
12月28日生

平成17年 公認二級審判員  
平成22年 公認一級審判員

平成28年 北海道軟式野球連盟 審判技術員

平成28年 北海道軟式野球連盟 審判指導員  
令和2年 日高支部 理事  
令和6年 日高支部 審判部長  
令和6年 日高支部 副理事長

日高支部・審判技術員



千葉憲児 氏  
昭和42年  
5月17日生

平成24年 公認二級審判員  
平成29年 公認一級審判員  
令和6年 北海道軟式野球連盟 審判技術員  
令和6年 日高支部 理事

十勝支部 審判部長



高島敏彦 氏  
昭和33年  
6月13日生

平成4年 公認二級審判員取得  
平成10年 公認一級審判員取得

平成28年 十勝支部 副理事長

令和4年 十勝支部 副支部長  
令和6年 十勝支部 副支部長 兼 審判部部長

十勝支部 評議員

佐藤季之 氏  
昭和40年  
5月12日生

平成22年 公認二級審判員取得  
平成24年 公認一級審判員取得  
平成25年 支部技術員  
平成27年 北海道軟式野球連盟十勝支部 技術員  
平成27年 北海道軟式野球連盟十勝支部 技術委員  
令和6年 十勝支部 評議員 兼 審判部副部長

十勝支部 技術員



小寺 誠 氏  
昭和46年  
3月9日生

平成14年 公認二級審判員取得  
平成25年 公認一級審判員取得

平成28年 十勝支部 技術員  
令和6年 北海道軟式野球連盟十勝支部 技術員

旭川支部 副理事長



菅野英樹 氏  
昭和44年  
8月14日生

平成28年 旭川支部 理事  
令和元年 全日本軟式野球連盟 審判技術指導員  
令和6年 旭川支部 副理事長

旭川支部 総務部長・旭川支部評議員



山保温史 氏  
昭和29年  
4月8日生

平成18年 旭川支部 理事  
平成25年 旭川支部 技術員  
平成28年 旭川支部 理事 審判部長  
平成30年 旭川支部 理事 一般・おはよう部長  
令和6年 旭川支部 理事 総務部長・旭川支部 評議員

旭川支部 会計部長



中原 勉 氏  
昭和58年  
6月18日生

平成30年 旭川支部 理事  
令和6年 旭川支部 理事 会計部長

旭川支部 審判部長



五十嵐 靖 氏  
昭和50年  
10月9日生

平成30年 旭川支部 理事  
令和2年 旭川支部 技術員  
令和6年 旭川支部 理事 審判部長

旭川支部 一般・おはよう部長



石突伸夫 氏  
昭和32年  
5月30日生

平成20年 旭川支部 理事  
令和6年 旭川支部 理事 一般・おはよう部長

旭川支部 技術員



大岩 登 氏  
昭和51年  
12月7日生

令和2年 旭川支部 理事  
令和6年 北海道軟式野球連盟 旭川支部 技術員

釧路支部 支部長



草島守之 氏  
昭和31年  
9月15日生

平成28年 釧路支部 副支部長  
令和6年 釧路支部 支部長

釧路支部 評議員



小林祥江 氏  
昭和42年  
4月23日生

平成24年 釧路支部 理事  
平成26年 釧路支部 アナウンス部長  
平成30年 釧路支部 副理事長  
令和6年 釧路支部 評議員

# 二〇二四年度 全日本軟式野球連盟 北海道ブロック審判講習会

二〇二四年五月十日(金)から  
十二日(日)までの三日間、中標津  
支部の協力により中標津町に於い  
て、各支部技術員が参加し開催さ  
れました。

初日は、マルエー温泉ホテル俵橋  
で座学、二日目からは中標津町営球  
場にて実技が開催されました。

## ○講義内容

十日(金)午後より、道連鎌田理  
事長、開催地中標津支部戸田支部長  
が挨拶の後、派遣講師の全軟連技術  
委員石中栄一氏による講話が行われ  
ました。

座学は、石中講師による全日本の  
各種大会で経験したプレーや審判  
ジャッジを通して伝えたい事等の講  
話に引き続き筆記試験を行い、試験の  
解答を各技術員から求め、技術指導  
員が正答し、各技術員は一〇の問題  
に悪戦苦闘していた。正答により更  
なる理解と技術向上に繋がったと理  
解した。

座学終了後、夕食を取り長旅の疲  
れを癒し、翌日の実技研修に備えて  
いた。

十一日(土)は、午前九時より夕  
方まで投球判定や基本的動作を中心  
に地元チーム、中学生野球部の協力  
の下、徹底した実技指導が行われ、  
今年も密度の濃いブロック講習会と  
なりました。



座学研修



十二日(日)も午前九時から講習会の総仕上げとして、キャンプゲーム(地元Aクラスのチーム同士)による実技講習を行い、適切な指導を受けました。

午前十一時三〇分からの閉講式では、石中派遣講師の講評、佐々木道連副理事長の挨拶で講習会を終了しました。

今回の北海道ブロック審判講習会の成果を支部及び連盟審判員に伝達し、今後の北海道大会などの実践に



実技指導研修

活かすとともに、今年九月に、十勝支部で開催される全国大会(高松宮賜杯二部)に向けた審判技術の向上にも繋がったと確信しています。

石中派遣講師と共に指導していただいた道連の審判技術指導員の皆さま大変ご苦労様でした。

また、中標津支部並びに地元チーム、中学生野球部の皆さまには大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

(道連審判部)

## 支部トピックス

### 函館支部

#### 道南ブロック審判講習会を開催

四月二十八日(日)道南ブロック審判講習会が函館支部で開催いたしました。

講習会の講師は、全日本軟式野球連盟技術委員(道連副理事長)佐々



木さんと全日本軟式野球連盟審判技術指導員門馬さんの指導の下で参加者が約四十名、お手伝いの桔梗中学校の生徒約二十名で実施されました。

まだ函館も少し肌寒く、しかし指導員の指示に従って九時より座学を行いプログラムに沿って、一時間ぐらい野球規則・競技者必携の改正・実技のポイントなどの説明の後に質疑応答を行いました。十一時からグラウンドに出て準備体操・基本練習を



行い、十三時から本塁・各塁における基本的・一般的事項の説明(実技)、最後に時間をかけてキャンプゲームなどを行い十五時三十分を終了いたしました。

支部トピックスとしては、竹内えり子審判員が今年から道連技術員として登録され、先日の中標津の技術員審判講習会にも参加しているところです。

函館支部の道予選大会などは、大会責任者として孤軍奮闘して頑張っているところです。

(北海道軟式野球函館支部 関口 隆)

### 千歳支部

## 審判講習会の開催

四月二十七・二十九日の両日二〇二四年審判講習会を開催しました。二十七日は、昨年好評であった学童審判員を対象に座学並びに実技を行いました。参加者は、昨年比べ千歳・北広島・恵庭の三連盟から五十三名と大幅に増え関心の高さが伺えました。座学のあと、グラウンドで実技に移りましたが、参加者の意気込みが素晴らしく、体操の後の基本動作、ゴー・ストップでは講師の

菊地技術員が感心するほどの出来栄でして、続いて、各塁の位置取り等を体験し、また、日頃ゲーム中で起こった事象などについての質問が出され、大いに学びました。ここ数年、学童審判員が全軟連公認を得て活躍しているケースが多く、支部審判員の高齢化に伴い若干希望が持てる気がしました。

二十九日は、千歳には珍しく好天・高温の中、全軟連佐々木技術委員を特別講師としてお招きし、支部審判員の講習会です。今年、六月二十九日から七月一日に「天皇賜杯第七十九回全日本軟式野球北海道大会」が予定されており、参加者一同気合が入っていました。ただ、平均年齢が高く気合とは別に、それぞれの動きが心配されましたが、幸い落伍者もなく、順調に進みました。各塁のフォーメーションでは、基本的な動きを復習しつつ、新しい三塁や本塁での位置取りを学びました。昨年までと異なる動き等に、先輩方は戸惑ったようですが、菊地技術員の熱心な指導に納得の様子でした。

最後に佐々木技術委員は、前日の函館支部審判講習会を終えお疲れの

ところ千歳において頂き改めて御礼申し上げます。

(千歳支部リポーター 清水為一)

### 留萌支部

## 「野球にヤジは必要ありません」道北ブロック(留萌支部)審判講習会

四月二十七日(土)九時から天塩町において、審判講習会を開催。

予想外に暖かい天候に恵まれ、道北各地から約三〇名が参加。塩田審判部長のあいさつの後、わ



かりやすい説明と定評のある渡辺早人指導員と軟式野球に留まらない話題も踏まえた砂田隆樹指導員の解説に参加者からは納得の表情が覗えたところであります。

また、「ヤジ」の扱いについて、対戦チームに対する発声は、称賛することはあっても中傷するような声掛けはやめること。子どもたちが、「野球を好きになる」ことを念頭に指導するようチームに伝えることとした。

天塩町運動公園野球場では、地元「豪球会・天塩BB・遠別クラブ」の面々が実技のお手伝いに参加していただき感謝です。

今年、道北五支部のうち四支部で新しい技術員がデビューとなり、指導員のサポートをもらいつつジェスチャーコールから各塁の説明までスムーズな説明を披露。今後の活躍に期待です。

フォーメーションでは、球審のタグプレーやフォースプレーの位置取り、塁審のスターティングポジションを繰り返し練習。高松宮賜杯一部北海道・北大会に向け、中身の濃い講習会を糧に万全の準備を進めます。

## 「留萌支部Top-ix」

今年度、支部の役員改選に伴い、事務局体制が一新され、長く事務局があった苫前町の川村事務局長から、これまで審判部長であった遠別町高橋事務局長にバトンタッチとなりました。

事務局は最初の事業をこなし一安心する間もなく、全道大会に向け準備を進めてまいります。

高松宮賜杯一部北海道・北大会は、七月六日から、「ホタテの街、遠別町」と「シジミの街、天塩町」で全道の精鋭をお待ちしております。

(留萌支部理事長 辨開淳美)

## 旭川支部

### チーム審判員制度を導入

旭川支部では、審判員の高齢化、減少に伴いチーム審判員制度を導入し、一般・学童各大会にチーム審判員として、また新規審判員発掘のため二月から三日の日曜日に講習会を五回開催し、一二九名の参加があった。内容は、一般座学と体育館の中であるが審判技術の基本的な動きである。



また、支部審判員を対象に冬期講習会を開催し、四十名の参加を受け、審判の始動に向けた基本的な技術の指導を行った。

規則改正に伴い四月十一日、十二日に座学を五十二名の参加により実施し、四月二十日には東光スポーツ公園ドリームスタジアムにおいて実践形式を取り入れた実技講習を四十四名の参加により実施した。

この他中学校の教師を対象にした審判技術講習会を愛宕中学校のグラウンドで三十名の参加により行い、立ち位置、足の運び方等の技術的なテ

クニックと新たに取り入れる動きなどを指導した。

今年度は、新たな審判員が十名ほど加わり、高校生及び女性審判員が誕生し、これからの活躍が期待されている。

(旭川支部レポーター 山保温史)

## 網走支部

### 「網走支部審判講習会を開催！」

四月十四日(日)各連盟審判員四十名の参加により、令和六年度網走支部審判講習会を開催しました。

呼人コミュニティセンターでの座学では、規則改正や競技者必携の改訂等を学び、その後、実技会場のオホーツクドームに移動し、田淵全日本軟式野球連盟技術指導員を始め網走支部審判技術委員会の委員を中心に四班に分かれ、網走市内の一般五チームの協力を得て実技を行いました。

ジェスチャーコールやゴーストツプコールの基本動作のほか、球審の基本動作、各塁での基本動作を行い、それぞれの場面に応じた動きを確認しました。

今年度は、六月二十二日(土)から三日間の日程で、高円宮賜杯 第四十四回全日本学童軟式野球大会(マクドナルド・トーナメント)北海道大会を網走支部が主管し開催されます。

審判員一同心を新たに大会の成功に向け、審判技術の向上に取り組んでいきます。

(網走支部レポーター 堀田国男)

## 十勝支部

### 十勝支部審判講習会

令和六年度の十勝支部審判講習会

が、連休最終日の快晴の下五月六日(月)に、十勝管内の審判員、中体連指導者、少年野球指導者など、総勢九十名ほどの参加により開催されました。

午前中は、帯広の森コミュニティセンターで、今シーズン規則改正などを確認しました。

特に必携に掲載された「野球にヤジは必要ありません」は、これから成長していく学童選手、少年選手、



また生涯スポーツとして楽しむアマチュアプレーヤーにとつて素晴らしいことだと思えます。

午後からは会場を移し、帯広の森平和球場で実技講習を行いました。

今シーズンは、十勝で第六十八回高松宮賜杯二部全日本軟式野球大会が開催されることもあり、熱の入った講習会になりました。

コロナ制限も解除され、選手整列も従来通りに戻り、より一層大好きな野球を選手も、審判員も一緒に愉しんでいければと思います。

(十勝支部 理事長 小川敏也)

#### 南空知支部

### 二〇二四年度シーズンに向け審判講習会を開催

毎年恒例となっておりますシーズンはじめの審判講習会ですが、座学と実技を分けての講習会開催は、三年目を迎えます。

はじめに、座学は四月十四日、月形町多目的研修センターを会場に、三十五名が参加し、本年度の規則及び競技者必携等の改正点、昨年度支部大会等で実際にあったトラブル等の処置や、公認審判員試験(一・二級)



の過去問題をグループ毎に解答し合うなど、昨年度の反省と色々な場面での展開を想定した適切な処置方法を名和審判部長が解説するなど、参加者が初心に戻り学びを広げることができました。

次に実技は、四月二十八日、月形町野球場を会場に、三十二名が四班に分かれ、球審の構え、ストライクゾーンや各塁での基本的な動きなどを確認しました。

特に球審では、投球判定時に顔を動かしたりせず、目の動きだけで

ボールを追う動作(トラッキング)を確認するなど、各人の繰り返し時間の確保、具体的に効果的な講習会が行われました。

二〇二四年度においても、この講習会で学んだことを活かし、各種大会において、適正かつ公平な判定をし、選手に信頼される審判員になれるよう全員で頑張りましょう。

(南空知支部レポーター 西脇圭一)

#### 石狩支部

### 「支部定時評議会を開催」

去る四月二十日(土)に支部定時評議会を開催し、令和五年度事業報告・決算報告及び令和六年度事業計画・予算等の審議を行いました。

昨年度は、天皇賜杯第七十八回全日本軟式野球大会ENEOSTーナメント南・北海道大会にて見事J A道央野球部が優勝し全国大会に出場したほか、文部科学大臣杯第十五回全日本少年春季軟式野球大会ENEOSTーナメント北海道少年軟式野球選抜選手権大会名鉄観光トーナメント南・北海道大会にて大麻・中央・新篠津中学校が準優勝するなど登録チームの活躍が目立った年でもあり



石狩支部定時評議会

ました。  
また、本年度は当支部の役員改選年であり、これまで支部を牽引していただいた山田支部長（当別軟式野球連盟から、新たに澤田支部長（石狩軟式野球連盟）にバトンタッチされるなど、支部一丸となって、野球というスポーツの一層の発展を目指

そうということを確認し合いました。

また、評議会では、積立金の今後の用途の見込や、来年度から導入されるマスターズにおける資格の取扱いなどについて意見交換がされたほか、技術・審判部からは、投手の十二秒・二〇秒ルールや試合中における抗議権など、今年度の規則改正点の確認を行いました。

最後に、事業の推進にあたり、競技マナーの指導徹底をはじめ、円滑な大会運営など、一年間の活動を全員で確認し、終了したところです。

（石狩支部リポーター 眞鍋慎治）

### 「道央ブロック審判講習会を開催しました！」

四月二十日（日）に石狩市にあるサン・ビレッジいしかりを会場に道央ブロック審判講習会を開催しました。

講習会は北海道軟式野球連盟技術委員長の田淵指導員と、同じく技術委員の砂田指導員に講師をしていたいただきました。

座学では、今年度の野球規則及び競技者必携の改正事項について説明

をいただきました。

投手の十二秒・二〇秒ルールの取り扱いや、守備側のタイムの回数制限、特に一イニングに同一投手のもとへ二度目に行けば、その投手は交代となるという規則を適用しないとする競技者必携の改正などについて説明いただきました。改正事項については、各支部技術員を通してしっかりとブロック内全体に周知徹底を図りたいと思います。



その後の実技指導では、基本的なジェスチャー・コールやゴーストアップコール、投球判定練習のほか、各塁における基本的な動きや位置などの説明を各支部の技術員中心に行いました。指導員から補足で新しいメカニクスの説明もあり、各審判員も新たな取り組みとして真剣なまなざしで取り組んでおりました。

今回の講習会で学んだことをしっかりと理解し、地元の審判員に伝え、今年の大会で各審判員が共通理解のもとトラブルなく終えられるよう努めて参ります。

最後に、今回の講習会を開催するにあたり、講師をしていただきました田淵委員長、砂田指導員、そしてご協力いただいた石狩市役所野球部、JA北いしかり野球部の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

（石狩支部審判部 高田憲一）

### 「石狩支部審判講習会を開催しました！」

四月二十八日（日）に当別町にて当支部審判講習会を開催しました。

今年も、JA北いしかり野球部の



練習試合の場をお借りし、実践的な講習会として開催いたしました。

試合前の時間を使い基本的なコール練習とゴ－・ストップ・コールを行い、その後の試合では、二イニングずつクルーを決め、塁審については一イニングずつ担当する塁を変えて多くの塁の動きを確認できるように配置を工夫しました。

シーズン初めということで、実践の動きの中でも基本的なコールや動きができてくるかの確認と、ゴ－・

ストップ・コールを実践に活かしてプレイを止まってみることを課題として挙げて取り組みました。

実際の試合の中では、二塁審の三塁カバーや一塁審の本塁カバーが遅れるなど基本的なローテーションができていない部分などを改めて確認するとともに、試合の流れを左右しかねない部分でもあるので、改めてシーズンに向けて指導させていただきました。

そのような中にあっても、インフィールドフライの意識がしっかりとできていたり、しっかりとしたラッキングからオーバークッションを繰り返す審判員もいたり、各審判員の練習の成果が見られる場面もあったので、参加している審判員それぞれに実りのある講習会になったと思います。自分も含め、この講習会での反省点を、しっかりとシーズンに活かしていつてこの一年をトラブルなく過ごせるようにしたいと思います。

最後に、今回の講習会を開催するにあたり、貴重な練習試合の場を提供いただき、審判員の技術向上にご協力いただいたJA北いしかり野球部と対戦相手の新冠町役場野球部の

皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(石狩支部審判技術員 高田憲一)

## JA道央野球部

我がチームは平成十三年に恵庭市、江別市、北広島市、千歳市のJAが合併し、創部してから二十三年目のシーズンを迎え、現在部員は二十名で活動をしています。

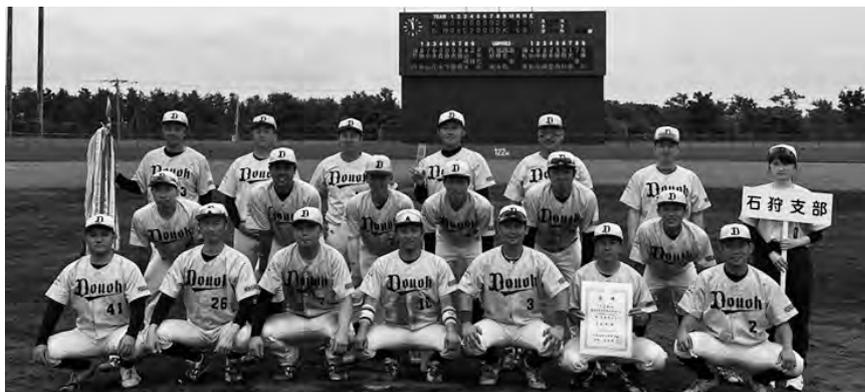
私は、令和四年より監督を務めている、茶畑と申します。

さて、当チームでは、ほとんどの部員が高校・大学と硬式野球をやっていた選手ばかりですので、まずは軟式野球に慣れることを中心に、硬式野球と違うところ、この点を指導し意識させ行動させてきました。

当チームは優秀な投手陣を中心にロスコアの試合が多く、常に練習では一点の重みを意識し、技術向上・メンタル強化を重点に練習に取り組んでおります。また、攻撃面では、個々ではなく、試合に出ている選手全員が同じ考えで打席に立つようになり心掛けており、切れ目のない打線で、全員で相手にプレッシャーをかけることを意識して戦っております。

最後に、職場の方々や組合員の方々の支えで、大好きな野球をすることが出来ていることに感謝しつつ、天皇賜杯全日本軟式野球大会南・北海道大会連覇に向け、そして全国制覇を目標に取り組んで行きたいと思っております。

(JA道央野球部監督 茶畑 晃)



JA道央野球部

# 新人審判の育成

旭川支部

## 旭川連盟に若手4人加入

### 軟式野球審判不足に救世主

旭川軟式野球連盟に、審判員として高校生2名、女性4人が相次いで加わり、小中学生社会人の大会や審判員として、高齢化が進む審判員が減る中、同連盟は早急の加入を呼び、活躍を期待している。

新たに連盟入りしたのは、旭川市立高野の成田智英さん16と日高悠斗さん16、旭川工業高野の森翔太郎さん15、千歳中の伊藤王子さん14。4人は20日旭川市の東光スポーツ公園ドリーム球場で行われた審判講習会にそれぞれ参加し、タッチプレー時の塁審の立ち位置やコールドの仕方、球審の基本動作などを教わり、先輩審判員約10人に混じって実践練習を行った。

連盟によると、ヒック時に1人1人ほったた審判員登録数は、現在約10人ほどに減少。実際に試合審判を務められる人は約40人とさらに少ない。一つの大会で1日約20人の審判員が必要となるため、複数回の大会を重ねると、ぎりぎりの人員で乗り切れる状態が続

#### 高校生3人と女性「競技に恩返しを」



軟式野球の審判講習会に参加した(右から)成田智英さん、日高悠斗さん、森翔太郎さん、伊藤王子さん

いているという。審判員は長時間プレーに集中し続けなければならず、肉体的にも精神的にもしんどい。その試合などを見て、ほっとしてあげたい。同僚が受けてもらっていいと、担い手減少の一因という。

新加入した4人のうち、一足早く昨年度加入した成田さんは、中学で選手と兼っていた。成田さんは、球壇の弟の試合を見て審判に憧れた。母は全道や全国大会でも審判を務めた。母を母、伊藤さんは、自身の3人の子供が少年野球チームに所属し、そこから、指導者になるのを目標とした。審判に難しさを覚えるようになった野球に恩返しできたいと話す。

同連盟の審判部長大谷登さん(47)は「4人の活躍が、新たな審判員を増やしてくれるといい」と話す。問い合わせは同連盟ホームページ内のメール、または電話011-666-5143(8時～)。(桜井明彦)

北海道新聞 2024年5月16日 掲載記事

# 各部近況報告

育成強化部

**(公財)日本スポーツ協会 軟式野球公認コーチ1**  
**(公財)全日本軟式野球連盟公認学童コーチ養成講習会を開催**

今年度は、「(公財)日本スポーツ協会軟式野球公認コーチ1養成講習会」(二〇二五年四月付け資格認定)を九月二十一日(土)、二十二日(日)、二十三日(月)の三日間、「(公財)全日本軟式野球連盟公認学童コーチ養成講習会」を十一月二十四日(日)に「札幌市中島体育センター」を会

# 編集後記

道軟連会報第八十五号に掲載する各支部からの記事を読んで、恒例ではありますが審判講習会の記事が多く、いよいよ二〇二四年の野球シーズンに向けた準備が始まったかと感慨にふけてしまいました。

さて、今年から北海道軟式野球連盟が、一般社団法人に移行したことは皆さんご承知のことと思いますが、この機に合わせて総務部では、各種資料の一斉見直しを行いました。

主なものをご紹介しますと、「北海道軟式野球連盟主催大会の運営場」に実施いたしますので、加盟チーム関係者のご参加をよろしくお願いいたします。

また、「全道少年軟式野球大会」に参加チームへの肘肩障害予防検診を七月二十六日(金)に「札幌つどい

ガイドライン」、「北海道大会に参加するチームの順守すべき事項」、「感染予防対策マニュアル」、「各種大会応援ガイドライン」、「熱中症対応ガイドライン」、「北海道大会に係る雨天時対応ガイドライン」などになります。

ほとんどが北海道大会を想定しているのですが、末端連盟の地区予選会や支部大会などでも参考にしたいと思っておりますので、活用していただければ幸いです。

今年も何事もなく無事にシーズンを終えられることを祈っております。

(道軟連 総務部理事 新林裕幸)

む」で実施いたします。

そのほか、「佐賀国民スポーツ大会」強化事業により北海道代表チームの躍進に向けた活動を行ってまいります。

(育成強化部 森田康晴)